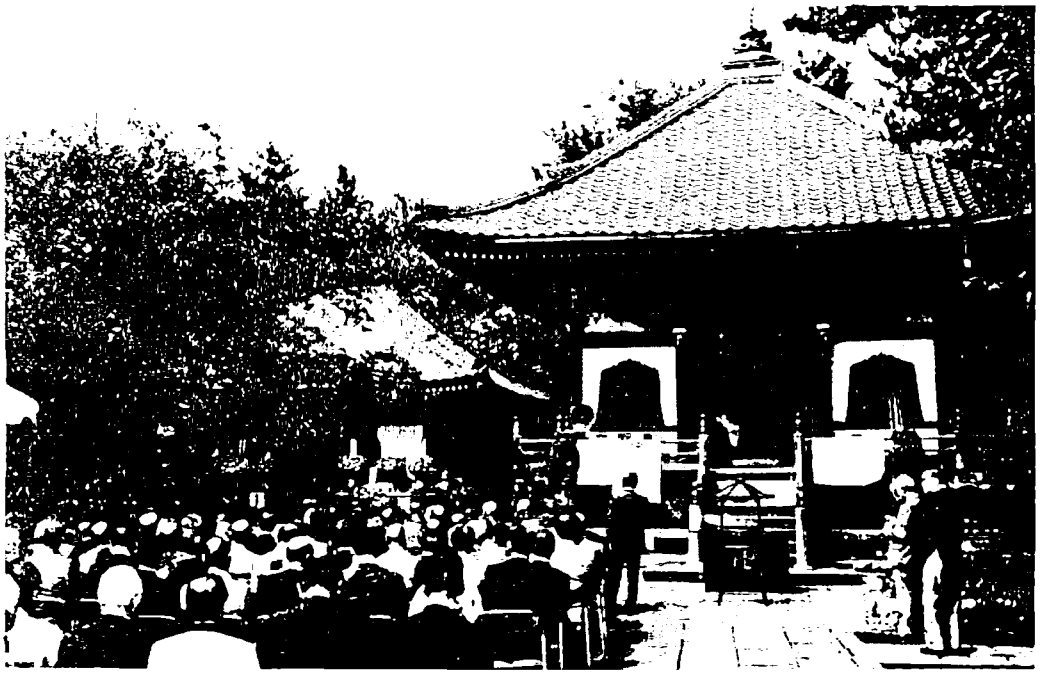
特攻

第1号

東京都世田谷区下馬3－25
世田谷山観音寺内
特攻平和観音奉賛会
電話（42.）6811
東京都千代田区五番町12
誠帝行社内
特攻隊慰霊顕彰会
電話（263）0851
編集人
発行人　最上　貞雄



第32回特攻平和観音年次法要（昭59. 9. 23）

特攻平和観音年次法要

去る9月23日秋分の日に第32回特攻平和観音年次法要が、世田谷山観音寺に於て、浅草寺式衆をお迎えして盛大に執行されました。

前日迄の雨に天候が一番案じられましたが、当日は珍らしい初秋のすがすがしい晴天に恵まれ、三百五十名に及ぶ方々の参拝をいただきました。午後二時式衆入堂に始まり山主願文、読経が行われ、奉賛会会長、竹田恒徳元宮様より祭文が奉読され、参拝者一同は往時を偲び深い感銘に打たれました。

祭文

過ぐる大東亜戦争に於ては、一億一心、国民斉しく撃ちてし止まんの気概の下、わが陸海軍の勇戦敢闘に拠りて物量之に続かず、後半遂に祖国危急存亡の危機に立ち到りました。

この時に方あり、英霊の皆様には、正に九死に一生を期さず、父母の恩愛を断ち、忠、孝、義、大和に徹した崇高無比の特攻精神をもって体当り攻撃を敢行し、よく敵艦撃破を期し、敵陣営の心胆を寒からしめ、全世界を驚かせしめ、全国民敢闘の的となり、[illegible]であります。

然しながら残念にも戦は敗れました。諸霊の真情を忖度すれば、同今なお[illegible]の涙を禁じ得ません。

戦禍収まって既に38年、わが日本は御霊の御加護により空前の復興発展を遂げました。また、わが国新秩序の目指した大東亜共栄圏内の各国は、[illegible]列強の圧政に苦しみ、[illegible]の独立国として、それぞれわが国と共に友好親等の道が進んでおります。そして[illegible]及ぶ所、全世界の植民地は解放され、[illegible]

[illegible]迄の所を得ているのであります。正に世紀の偉業と申すべく、皆様のご威徳は末代永世にわたり燦として不滅の光を放っております。

本日より第三十二回特攻平和観音年次法要にあたり、ご遺族はじめ、[illegible]ての戦友、上司、部下相集い、在天の英霊に対し、恭しく敬弔の誠を捧ずる次第でございます。

希くは英霊安らかにおわしますことを。

昭和58年9月23日

特攻平和観音奉賛会
会長　竹田　恒徳

祭文に続いて、海軍の長老である、元衆議院議員、海軍中将保科善四郎様より力強い霊前に捧ずる言葉が述べられ、更に早稲田大学稲崎会有志による献吟「特攻慰霊譜」並びに「白菊」隊一が奉納され、若き二溢れる合吟に一同感動を新たにした。

会長、遺族代表、同期生代表、来賓代表、参拝者一同による焼香が続き、終って鶴田浩二氏と[illegible]氏による挨拶があった。

鶴田浩二氏は第二期海軍兵行予[illegible]生徒八幡隊に所属し本名を[illegible]と申されて、特攻[illegible]の戦術、戦略[illegible]下直の戦術である大西瀧治郎海軍中将の遺言の中に一番士官[illegible]る軽挙妄動をつつしみ、[illegible]見つつ特攻精神を[illegible]のため、日本人として[illegible]れておりますが、今日日本を[illegible]、日本民族を[illegible]為を行う日本人がいる。先人の築いた高邁な精神を冒瀆する者が闊歩している。これが恐ろしいのだ。これら売国奴を駆逐して、この麗わしい日本を守り、平和な道を求めなければならない。戦い勝ちこそはならない。これこそが特攻精神である。自分はこの為たとえ命をとられても、絶対守り通してみせる信念をもっている。と言う主旨の挨拶をされ、一同強烈な感動に打たれました。

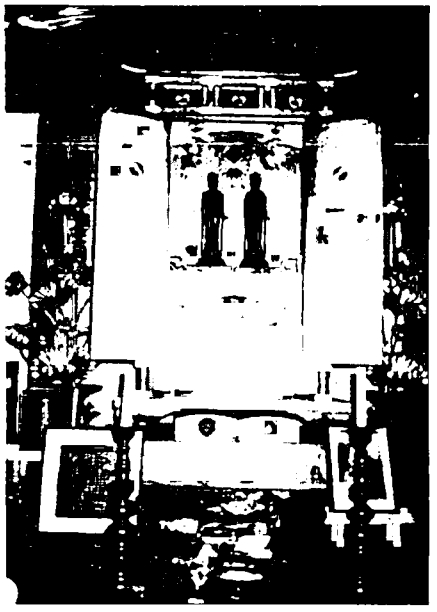
終って[illegible]代表[illegible]挨拶とともに[illegible]、敬礼の中に盛大な拍手を[illegible]続き、直会に移った。天候に恵まれ、青空の下、ご遺族を囲んでの懇談は果てることなく続いたが、最後まで残った竹田会長の乾杯で解散となった。

特攻平和観音奉賛会入会のおすすめ

会員　年会費　一口　一、〇〇〇円
終身会員　一口　一〇、〇〇〇円

送金先　[illegible]郵便貯金
口座番号　東京一　四一七六六
口座名義　特攻平和観音奉賛会

なお、[illegible]この、[illegible]特攻隊にご入会を御願い申し上げます。



特攻隊合同慰霊祭のご案内

今年も左記により、特攻隊合同慰霊祭が取行われます。春秋に富む若き身を、九死に一生を期さず、敢然として国に殉じた特攻烈士の偉績を偲び、追悼の誠を捧げ、一人でも多くの方のご参加をお願い申し上げます。

一、日時
　3月23日(日)受付一一三〇
二、場所　靖国神社　参集殿集合
三、直会、九段グランドホテル
四、昇殿参拝
　玉串料　二、〇〇〇円
　直会（慰親会費）
　一般　六、〇〇〇円
　ご遺族　五、〇〇〇円
　計　一般　八、〇〇〇円
　　ご遺族　七、〇〇〇円

特攻隊慰霊顕彰会
会長　竹田　恒徳
副会長　佐藤　毅
同　寺崎　隆治
同　秋山紋次郎
同　高橋　正次
理事長　土屋　文雄
事務局長　最上　貞雄

特攻平和観音由来

大東亜戦争の末期、戦局にわかに急迫しわが祖国は存亡の危機に立ち至りました。

この国難を打開し、戦勢を挽回するため、異常の決意をもって敢行されたのが航空機ならびに舟艇等による必死必殺の特別攻撃でありました。若冠二十代、中には二十歳にも満たない多くの若人が、春秋に富む清純無垢の身をひたすら祖国に捧げ、決然として体当り攻撃を遂行し、散華されたのであります。

この陸海軍特別攻撃隊烈士の不滅の英霊を大慈大悲の平和観音像に顕現して、その忠烈な偉業を顕彰し、永遠のご冥福をお祈りし、又その慈光を拝するため、元海軍大将及川古志郎、同高橋三吉、元陸軍大将河辺正三、元陸軍中将菅原道大、元海軍中将寺岡謹平等の諸氏が発起人となり有志の方々に喜捨を仰ぎ、昭和二十七年春、平和観音像は造立されました。同年五月五日音羽の護国寺に於て、東久邇元宮様ご臨席のもとに開眼の供養が荘厳盛大に挙行せられ、特攻平和観音と敬称することとなりました。この観音像は大和法隆寺の夢殿に奉安してある秘仏「夢ちがい観音像」を特別のお許しを受けて鋳造されました一尺八寸の金銅像で、そのご胎内には特攻隊烈士の英名を書き入れた巻物が奉蔵されております。

この開眼供養のお言葉に「恭しく惟るに国家興隆の義は山嶽よりも重く、平和礎石の死は鴻毛の軽きに比し、必死必中の壮挙誠に帰するが如き純真無垢の慈顔は、これ特別攻撃隊員最後の英姿なり。ここに同志平和観像造立の意に賛し、相寄って尊形を大慈大悲の観世音菩薩と化し、英霊を安んぜんことを願す。それ菩薩の真身は想い難し、故に形像を造刻し、これに托してもって真仏に通ぜしむることを致す。今尊像の造立成り、具さに厳飾を極む。毫光燦として輝き、相好宛然たり。よって恭しく開眼の法を修す。」とあります。

特攻平和観音は護国寺境内の忠霊堂内に安置されておりましたが、お世話をしておられた白蓮社の解散に伴い、特攻平和観音をお守りする者がなくなりました。有志の方々が寛永寺其の他のお寺に交渉しましたが、当時の情勢では、どこも受入れてくれませんでした。元海軍中将清水光美氏よりこの話を聞かれた世田谷山観音寺の開祖太田睦賢大僧正はいたく感動され、観音寺の本堂に奉安されました。これはいつに睦賢大僧正のご厚志と大英断によるものと申せます。睦賢大僧正は特攻観音独自の堂宇建立の悲願にもえ、元華頂宮家遺愛の持念仏堂を山内に移築する運びになりましたが、その完成を見ずに昭和三十年五月二十四日遷化されました。後継者となられたご子息の賢照師が開山の意を体して特攻観音堂を完成せられ、昭和三十一年五月十八日落慶法要を厳修して、特攻平和観音を遷座されました。

最初の特攻平和観音は、陸海軍航空特攻烈士のみを顕彰するものとされておりましたが、昭和三十一年五月十八日、ついで三十三年同月同日、更に五十三年九月二十三日の大祭に於て、水中、水上各種舟艇特攻の烈士を追加合祀せられ、現在約五千に及ぶ特攻烈士の英名、が特攻平和観音像のご胎内に奉蔵されております。

境内の池の中にお立ちの観音像は、特攻平和観音像と同形の仏像で、昭和四十八年九月二十三日に開眼法要が営なまれました。

特攻平和観音奉賛会は、昭和二十八年有志によって創設せられ、昭和三十一年拡大されて遺族・有志が一体となった組織となり、昭和五十七年九月再組織を完了、引続き竹田恒徳元宮様を会長として奉仕しております。事務所は世田谷山観音寺に置いております。毎月十八日午後二時より月例法要を取行い遺族、有志が賢照師と共にお経を唱和して供養をしております。又毎年秋分の日（多くの場合九月二十三日）午後二時より浅草寺一山式衆のもと多数の参拝者をいただき、年次法要が厳修されております。年次法要には、毎回東久邇元宮様が参拝されておりました。又昭和三十二年六月九日には北白川元大妃殿下もご参拝になり、特攻隊烈士の御歌二首を奉献されました。

特攻平和観音に対する観音寺の真摯鄭重なるご奉仕ご供養には、有縁無縁を問はず深く感謝申し上げておるところであります。

昭和五十八年九月

特攻平和観音奉賛会

―世田谷山観音寺に
世界平和の鐘なりひゞく―

二瓶英二郎

夜来の雨もあがり、世田谷山観音寺の空はさわやかに晴れた。

昭和58年9月23日秋分の日に、第32回特攻平和観音年次法要が、金竜山浅草寺一山の式衆、大導師守山良順大僧正のもと世田谷山観音寺に於て取行われた。山主太田賢照大僧正の願文が境内にひびきわたり。泣くが如く、ほえるが如く、切々と会衆一同の胆をえぐる。

生もなく死もなくすでに我もなし
なげかざらめや　まうらをの友

北白川宮大妃殿下が特攻観音堂にお詣りされたときの御歌とうけたまわっている。

特攻観音堂の扁額をはさんで、特攻隊慰霊顕彰会、偕行社、水交会、陸軍航空碑奉賛会、航空同人会、特操一期生会、世田谷山観音寺観音講の花輪が林立し、張りめぐらしたテントには溢れんばかりの会衆が集まり、敬けんな黙禱をささげていた。

本年の特攻平和観音年次法要が従来になくもりあがったのには種々原因があるであろうが、国際環境の異状なまでの緊張に一因があるのではなかろうか。人類が核軍拡競争の中の生と死のはざまにあって、如何にして生き続けるかという絶対の問いがある。その問いに対して、静かにひとときを、祖国のために命をささげた英霊の生きざま、死にざまを通してその答を得ようとしたのではあるまいか。我等、いま何をなすべきかを。

一この身、今生に度せずんば、いずくんぞ来世に於て、その安心立命の境地を得ん」とする人々の集まりではなかったろうか。

また「後に続くを信ず」といって散った方々の衣鉢をつぐ人々の集りでもあった。

それにつけても、明治天皇御製には、常に戦死者のことに、大御心を注がせられるものが多い。明治四十年の御製「子」

かなし子にかたりきかせよ国のため
命すてにし親のいさをを

占領政策によって骨抜きにされた歴史教育に猛反省を促し、且つ又靖国神社に対する国家的な表敬を真剣に考えるときである。

明治四十年の御製「往事」

こよひまたむかしがたりは国のため
たふれし人のうへにおよべり

なにも明治天皇の御製だから、それを笠に着てなどという意味ではない。

特攻隊の方々の霊をおなぐさめすることこそ、正に国民教育、歴史教育のかなめであり、日本の平和の礎をなすものではあるまいか。

特攻平和観音奉賛会と
特攻隊慰霊顕彰会について

丸田文雄
（顕彰会理事長・奉賛会代表世話人）

陸海軍特別攻撃隊烈士の不滅の英霊を顕彰し、永遠のご冥福をお祈りするため、戦後まもなく元海軍大将及川古志郎、同高橋三吉、元陸軍大将河辺正三、元陸軍中将菅原道大、元海軍中将寺岡謹平等の諸氏を始め有志のかた方が発起人となり、昭和二七年春、平和観音像が造立されました。それからいろいろな経緯がありましたが、世田ケ谷観音寺の大義に徴するご厚志によって今日まで三十年の長きに亘り英霊のご法要が行われたまいりました。

このご法要は、同寺御住職によって末永く続けられますが、昭和二八年、前記、元陸海軍将官はじめ有志によって特攻平和観音奉賛会が創立され、逐次拡大強化されつつ、ご住職と共に供養申し上げてまいりました。

しかし、歳月と共に、奉賛会の中核であられた元陸海軍将官の方々も多くは他界され、あるいは老境に入られましたので、私ども後に続く世代の者が役員となり一昨年再組織を完了いたしました。この間の事情は特攻平和観音由来記に詳述されておりますが、この際私どもは不滅の英霊をお祀りいたすのに、これを観音寺だけにお頼りしているのに忍びず、みずからの力によっても顕彰慰霊の誠を尽くし、これを後世にわたって継ぐべきであると決意して特攻隊慰霊顕彰会を設立した次第であります。

従って奉賛会と顕彰会とは二位一体とし、会長は双方とも元海軍側から寺崎、佐藤の両氏、元陸軍側から秋山、高橋の両氏、また奉賛会代表世話人と顕彰会理事は私、丸田が兼ねて奉仕させて頂いております。奉賛会世話人、顕彰会理事などもすべて二位一体とし、毎年秋分の日は奉賛会として世田ケ谷観音で、また、毎年三月最後の日曜日は慰霊顕彰会として、清国神社で、それぞれ慰霊の誠を捧げている次第であります。慰霊顕彰会の事業等につきましては既にお届けいたしました趣意書その他でご高承のことと存じます。

私どもは、特攻の烈士に対しましては、いかに慰霊顕彰の誠を捧げても捧げ過ぎることはなく、この世界に比類ない崇高な精神を世に広め、かつ子々孫々に伝えることこそ、わが国永遠の平和と民族発展の礎石となるものと確信いたしております。どうか皆々様の格別のご支援ご協力をお願い申し上げます。

なお、事務局は次の通りでございますので、ご連絡ご質疑等あれば御申出で下さい。

〒102
東京都千代田区五番町十二
財団法人　偕行社内
電話03―263―〇八五一（代）
事務局長　最上貞雄

（偕行社事務局長、奉賛会事務局長も兼ねております）

特攻平和観音奉賛会会員

会員　小松米次郎、武藤俊子、飛沢裕、関口秀明、宮尾琢磨、丸井大陸、越智通雄、中川鈴三、山崎大二、窪川敏郎、赤羽剛平、吉田信勝、秋山富次、吉野己代治、松本寛子、井上金三、塚越吉衛門、秋山良作、伍井園子、桑田博、田中彰太郎、吉岡忠一、鶴間和作、広川治二、森敏、安田義人、木岡秀雄、杉田貞雄、村田秀生、角田和男、山口太吉、中野友次郎、中野秀江、加藤義秀、押川静雄、加藤玉井、鈴木章、米津千之助、柴田信也、滝村明夫、岸本津綱、岸本藤四郎、佐藤兼基、皆本義博、石橋祐夫、杉原正光、小林信男、久米栄四郎、西沢敏一、菲司芳夫、鬼頭謙二郎、藤田平三郎、明園昭二、近間治雄、大島功、小島三郎、星野善章。

終身会員　丸田文雄、清水千茂、斉藤義雄、千葉順司、秋山鉉次郎、板垣悦興、高橋正次、村田豊吾、鈴木素儀、長峰鶴郎、生田博、最上貞雄、飯田佐次郎、小杉稔則、杉本明、橋本秀信、小松利光、木下久子、新井重雄、張矢伍郎、寺崎隆治、芝崎まさ、清水文子、寺井俊一、渡辺栄、幸保敏雄、梅田廣之、辻繁雄、阿部喜一、池田進、根木信吉、渡辺博厚、柴田保、菅野勝、服塚寺正、荒木しげ子、伊達智恵子、小野勇、上代琢禅、白井健、落合有男、渡部直蔵、二瓶英二郎、峰山庫文、荒井つね、深牧安生、古屋七郎、竹内清子、江嶋稜、志村花、篠崎その、佐藤彰平、山田良市、辻寺雄、深堀道義。

（59年1月31日現在、敬称略、順不同）